



第49回日本呼吸器学会学術講演会

ランチオンセミナー30

日時 平成21年6月14日(日) 11:50~12:50

会場 東京国際フォーラム第12会場 (G510)

〒100-0005 東京都千代田区丸の内3丁目5番1号 TEL:03-5221-9000

COPDのトータルケア

— 啓発から呼吸リハ・地域連携まで —

COPD罹患者は、約530万人 (NICE Study2001年)と推定され、2005年患者調査 (厚生労働省)においては、実際に治療を受けている患者は22.3万人にとどまり、未受診又は日常診療においてCOPD患者が見過ごされている可能性が浮き彫りになっている。まず、地域での啓発から診断へ、その後、呼吸リハビリテーションを含めた治療と各ステップで様々なトータルケアが必要である。本セミナーでは、拠点病院・プライベートホスピタルの役割におけるトータルケアをテーマに、総合的なCOPD治療を推進するためのあり方等について議論したいと考える。

演題1

3つのトータルを見つめ直して

小牧市民病院 呼吸器・アレルギー科部長

平松 哲夫 先生

演題2

自己完結型+地域連携へ

霧ヶ丘つだ病院 院長

津田 徹 先生



共催:日本呼吸器学会学術講演会
フクダ電子株式会社



第49回日本呼吸器学会学術講演会 ランチオンセミナー30

COPDのトータルケア

— 啓発から呼吸リハ・地域連携まで —

演題1

3つのトータルを見つめ直して

小牧市民病院
呼吸器・アレルギー科部長

平松 哲夫 先生

呼吸ケアNo.1の地域を目指す公的病院としてその中で今後も増加が予想され重要な疾患であるCOPDについて3つのトータルケアとしてお話ししたい。1つ目は薬物治療だけでなく、リハビリ、HOT、NPPVなどの各治療アイテムの総合的利用と言う意味でのトータルケア。また2つ目は疾患として病院受診の入口である健診、禁煙外来、急性増悪から出口（外来、訪問、病診連携などの居宅支援まで）と言う一連の流れと言う意味でのトータルケア。3つ目は職種や立場の違う人がチームとして協力しマンパワーを高めると言う意味です。この3つのトータルケアの観点から現状と問題点を整理し、スペシャリストとして何を指すべきかを見つめ直したい。

演題2

自己完結型+地域連携へ

霧ヶ丘つた病院
院長

津田 徹 先生

呼吸器に特化したプライベートホスピタルの立場から、COPDに対して自己完結型と禁煙支援から診断・治療・増悪時の入院、呼吸リハ（医療保険・介護保険）に関わってきた。まず、当院での取り組みをご紹介したい。患者さんにとっては急性期から在宅までの顔の見えるケアを継続することが安心につながるが、エリアは限られてくる。次に自己完結型+地域医療連携をどのように行うか、福岡COPD研究会での取り組み、脳卒中地域連携バス北九州標準モデルを慢性呼吸不全バスへ乗せ換える試みなどの現状をお話ししたい。

さらに進化した酸素濃縮装置

FH-30/3Lは音声ガイダンス、リモコン装置など
これまでの濃縮装置をより快適に使いやすく進化させました。



酸素濃縮装置クリーンサンソ

FH-30/3L

快適な呼吸環境の提供を目指した人工呼吸器

高性能タービンとプロポーションバルブを組み合わせた
独自のコンセプトをベースに開発した“VS Easy Fit”シリーズ。



人工呼吸器/在宅用人工呼吸器

VS Easy Fit range

フクダ電子株式会社

〒113-8483 東京都文京区本郷3-39-4 TEL (03) 3815-2121 (代)

フクダ電子 |

検索